

開催日 令和3年3月1日

出席者 山口 裕稔 会長、浅野 良一 委員、田中 隆夫 委員、宮坂 政宏 委員、山本 冬彦 委員、横山 寛 委員、大西 雅美 校長、事務局教職員、書記

1. 大阪府立槻の木高等学校 学校運営協議会実施要項の改正について

賛成多数。以下はご意見。

- ・ただし、オンライン会議ができる環境を整える必要がある。（学校側と委員側の相方において、PC周辺機器、ネットワーク環境含めて）
- ・会議運営について、止む無く会議場への出席が困難な場合、オンラインにより会議参加が可能となれば、各委員の協議会への意識高揚につながり、充実した会議運営ができるのでは。ただし、第10条6番の情報の機密性を確保できる場所の確認は具体的にどう決めるのか。
- ・第10条 4項（3）他の重要な用務との兼ね合いで、会場場所に移動するいとまがない場合。について、修正案

（3）その他やむを得ない事情で会議の場に出席できず且つオンライン参加が可能な場合。

- ・出席を前提に会議を開催する中で、オンライン参加を認める場合、委員のなかで会場で参加できる者とできない者の双方が発生する場合には、オンラインであってもできるだけ参加を認める方向でいくのか、災害などの例外的な場合しかオンライン参加を認めないこととするのか、その在り方の違いによって、提言の文言も変わってくると思います。出席を前提とする場合は、災害などの場合を除いては極力オンライン参加を認めない方が混乱が少ないかと思います。ただ、運営協議会の趣旨を考えると、できる限り多忙ななかでの委員の参加を促進するという意味では、できるだけオンライン参加もできるようにしておいた方が、学校にとってはやりやすいのではないかと思います。そのあたりのバランスを考えるのは難しいのですが、そこで修正案を考えてみました。原案では規定の文章としては少し不適当な部分もあると考えますので、上記の文言にしてみました。

2. 令和2年度学校経営計画及び学校評価について

- ・学校教育自己診断の結果から授業の指導方法の工夫・改善、グループ学習などのポイントが高くなっており、学校（教職員）の努力に保護者、生徒の高い評価を感じました。
- ・I（1）進路実現について、今年度の結果はまだですが、国公立大学現役合格16%以上の目標はぶれずには是非今後もめざしてほしいです。昨年は15名と少なかったことをふまえて、40名を目標にしてほしい。（やはり、進路実績は中学生が高校選択する際の指標となるので）
- ・総合的に良く努力されているように思う。新型コロナ感染拡大により十分な学校生活が送れなかった中で、教師と生徒が常に努力を惜しまず、前へ向き過ごしていることは大変良いのでは。
- ・全般に良い内容となっていますが懸念点のみ記します。

資料2 国公立現役合格率22%を達成するため何が課題（ハードル）となっているのか分析し、対応策を考える必要。現在ギリ貧である。授業満足度をもう少し高める。

資料4 1年生が多く項目で5%以上も下がっている。特に3、8、19～23、43、44。3年生の19、44～46とともに正しく問題点を分析し対応する必要。教員は16、26、33などの指導上の課題。人権教育（38～45）教職員間のコミュニケーション（11、53）に課題を感

じている。このあたりの対応が必要、特に到達度の低い学生指導、読書には力を入れてほしい。

資料5 あてはまらない生徒への対応が大切。設問と学力の相関を調べる。おそらく Q1Q2 が出来れば高学力になっていると考える。

- ・資料4の令和2年度 学校教育自己診断結果報告につきまして、教職員を対象とした以下の項目が気になりました。

1 1 学校経営 番号 50 学校経営に教職員の意見が反映されている が 68.8

1 2 学習指導 番号 16 到達度の低い生徒に対する学習指導について、全体的課題として取り組んでいる が 60.5。番号 34 情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる が 66.7

1 3 生活指導 番号 25 校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、生徒や教職員の間で話し合う機会がある 64.5

1 7 情報発信 番号 80 保護者や地域の人々と接する機会を設けている 66.7

1 9 人権教育 番号 38 人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている 51.6

具体的にどのような課題があるのかこのアンケート結果からは読み取ることができませんが、改善点として特に意識した方がいいのではないかと考えます。

- ・今年度は、コロナ禍の状況の中、着実に教育活動を積み重ねられ、楓の木高校らしい校風を維持し成果に結びつけられたことを評価します。なかでも、ミドル教員が音頭をとってのオンライン授業や生徒とのコミュニケーション充実は流石です。

3. 令和3年度学校経営計画及び学校評価について

- ・地域社会から期待される学校づくりを今後もお願いいたします。
- ・私自身保護者として「入らせたい」「入ってよかった」楓の木高校であったと思います。子ども達2人も楓の木高校のおかげで人間的にとっても成長させていただきました。5年後も10年後もそういった学校であり続けてほしいと思っています。
- ・規範意識、主体性、自尊感情、人間関係調整力等の育む教育を更に推進する。
- ・教職員間のコミュニケーションの充実を図り、教員間の相互理解、信頼関係をさらに高め意識の向上につなげ、生徒たちへ信頼と安心をあたえてもらえればと思う。
- ・楓の木NEXTSTAGEの更なる拡充、充実を図り社会で生き抜くための学びに向かう力、積極性・意欲、人間性の涵養に努力を惜しまない。
- ・「規範なくして学力向上なし」規範への更なる意識改革に取り組む。将来、社会の中で様々な状況に対応し、確りと生きていく術を学び得る環境づくりが出来ればと思う。
- ・伝統文化に触れることは、知性・教養・嗜み等々、人としての重要なところを補ってくれるものと思う。そこから、学び得る基本の礼儀、挨拶の重要性を感じていただければと思う。
- ・こちらも概ね良い内容と感じていますが、あえて下記に留意するよう申し上げます。
 - ① 授業満足度数値を高く設定する。
 - ② 国公立現役合格16%達成に向けた具体的で細かなプランが出来ているか。
 - ③ 「入学してよかった」数値を全学年ともに80%以上とする。
 - ④ 読書、論文指導、到達度の低い生徒の指導を全学年取り組む。読解力、表現力が問われるため。
- ・個々については特にありませんが、将来的には各教科ごとの課題がある程度見えるような仕組みが出来ればいいのではないかと思います。

- 「規範なくして学力向上なし」は学校に根付いていますし、成果を上げています。今後は、「槻の木 next stage」への取組の推進強化だと思います。学校外との交流を活発にし、課題研究などの探求型プログラムにチャレンジすることで、生徒たちの未知の状況でも生き抜く力や、社会で役立つ高い志を育てていただきたいと思います。「規範により学力向上」「探求による高い志」の2本柱でしょうか。